

(2)アンケート調査の結果について

①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

2017年6月29日

①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

介護予防・日常圏域ニーズ調査の実施概要

【アンケート調査の目的】

第7期「まえばしスマイルプラン」策定にあたり、日常生活圏域における高齢者の生活実態やニーズを把握する

圏域名	1号 被保険者	割合	調査人数			調査対象者					回収状況			
			一般	要支援	総数	一般	要支援		総数	回収数		回収率		
							要支援1	要支援2		一般	要支援			
1 北部・中部	6,033	6.5%	175	19	194	4,753	441	272	169	5,194	142	128	14	73.20%
2 若宮・城東・中川	6,018	6.5%	175	19	194	4,748	432	232	200	5,180	141	127	14	72.68%
3 文京・南部	6,232	6.7%	181	20	201	5,115	402	239	163	5,517	152	137	15	75.62%
4 上川淵・下川淵	10,122	10.9%	293	33	326	8,512	540	285	255	9,052	234	209	25	71.78%
5 芳賀	3,088	3.3%	89	10	99	2,596	128	69	59	2,724	76	68	8	76.77%
6 桂萱	7,962	8.5%	230	26	256	6,610	428	235	193	7,038	198	180	18	77.34%
7 東	7,400	7.9%	214	24	238	6,146	455	267	188	6,601	185	172	13	77.73%
8 元総社・総社・清里	8,291	8.9%	240	27	267	6,945	402	218	184	7,347	201	183	18	75.28%
9 南橋	10,058	10.8%	292	32	324	8,457	465	248	217	8,922	244	226	18	75.31%
10 永明	6,170	6.6%	179	20	199	5,184	311	170	141	5,495	155	140	15	77.89%
11 城南	5,363	5.8%	156	17	173	4,490	215	99	116	4,705	132	117	15	76.30%
12 大胡	4,577	4.9%	132	15	147	3,806	181	88	93	3,987	108	96	12	73.47%
13 宮城	2,388	2.6%	69	8	77	1,980	105	47	58	2,085	53	46	7	68.83%
14 粕川	3,312	3.6%	96	11	107	2,768	125	58	67	2,893	76	69	7	71.03%
15 富士見	6,138	6.6%	178	20	198	5,266	259	135	124	5,525	135	118	17	68.18%
合計	93,152	100.0%	2,699	301	3,000	77,376	4,889	2,662	2,227	82,265	2,232	2,016	216	74.40%

①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

家族や生活状況について

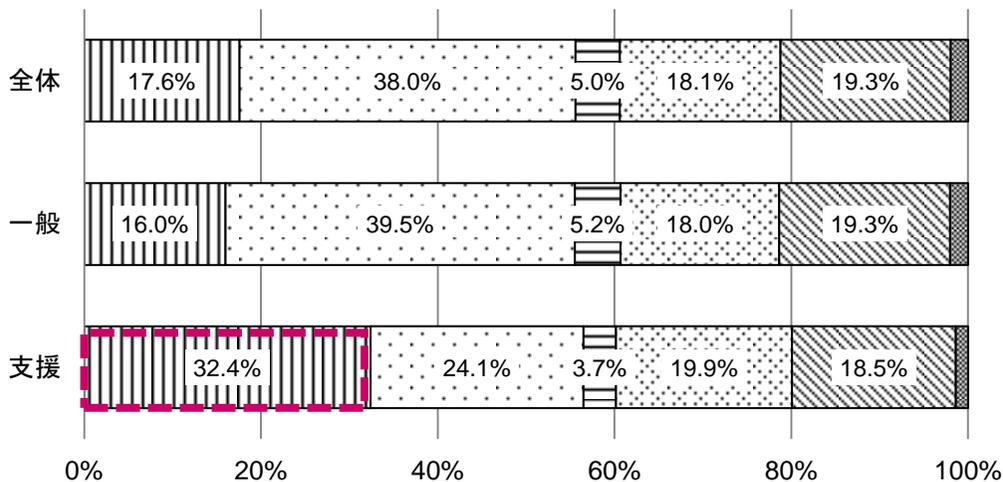
■ 家族構成

● 全体

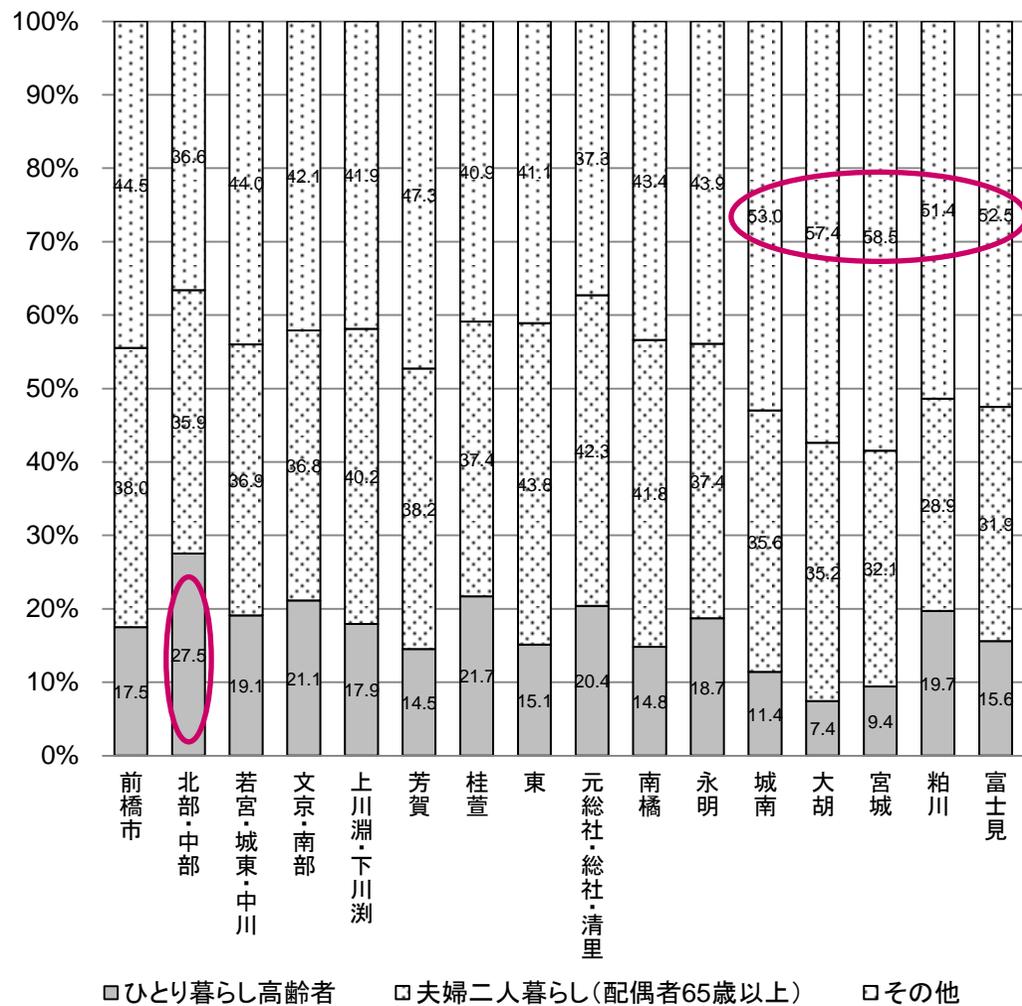
- ・ 65歳以上の世帯は半数を超える
- ・ ひとり暮らしの要支援者が多い

● 圏域別

- ・ 城南及び合併地域は、2世帯や3世帯で生活している割合が他の圏域より高い
- ・ 北部・中部は、ひとり暮らし高齢者の割合が他の圏域より高い



1人暮らし
 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)
 その他
 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
 息子・娘との2世帯
 未記入



ひとり暮らし高齢者
 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)
 その他

①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

家族や生活状況について

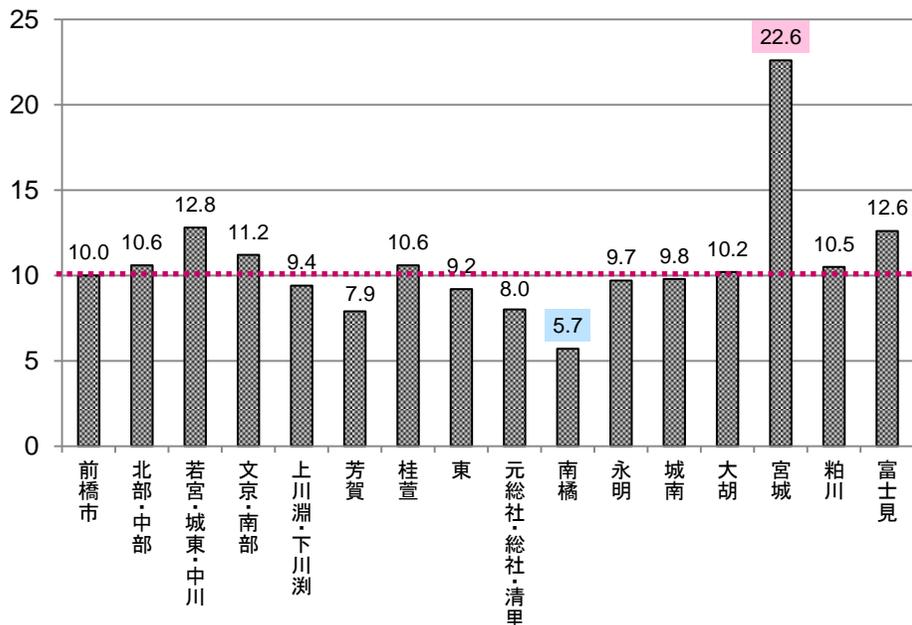
■ 介護・介助の必要性

- 芳賀は介護が必要な方が多く、実際に何かしらの介護を受けている
- 宮城は介護が必要な方が多い。加えて、介護が必要だが現在は受けていない方が突出して多い。
- 桂萱、東、南橘、大胡は、介護が必要な方が少ない

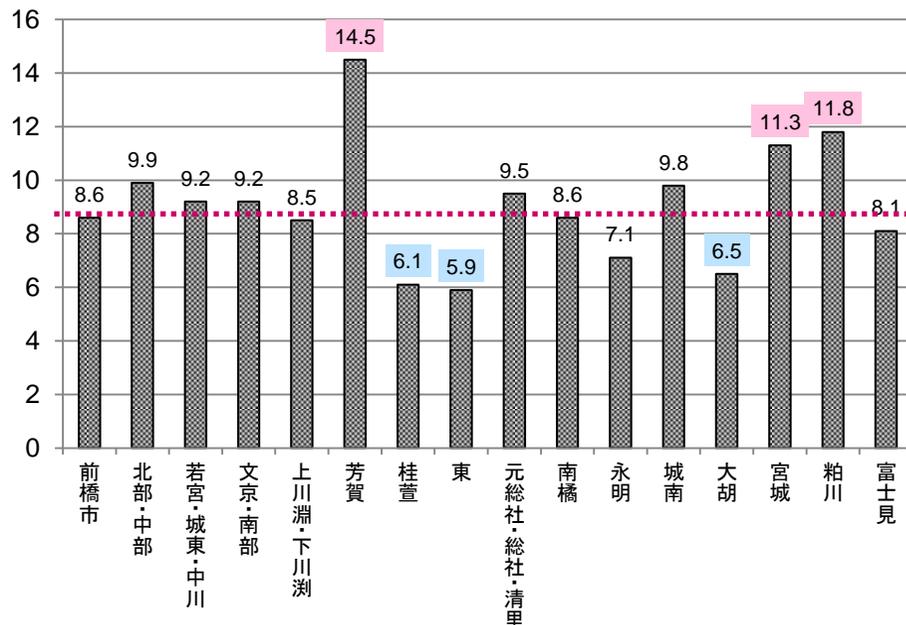
- 介護が必要だが現在は受けていない高齢者の割合は、家族構成や周囲の介護事業所数が影響していると想定される
- 介護が必要な高齢者の割合が低い圏域は、高齢化率も低い



◆ 介護が必要だが現在は受けていない高齢者の割合(%)



◆ 介護が必要な高齢者の割合(%)



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

家族や生活状況について

■ 経済的な暮らしの状況

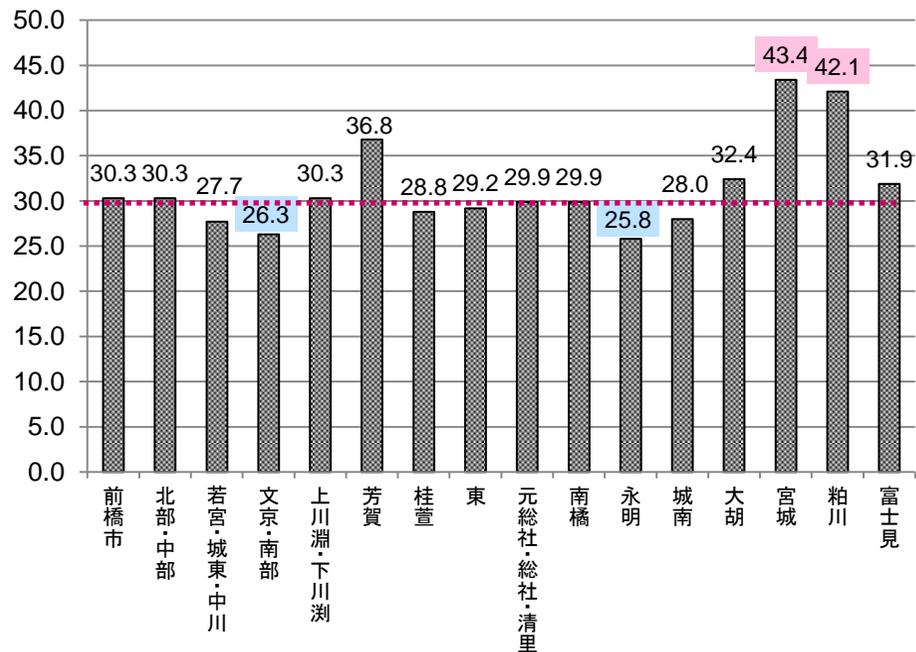
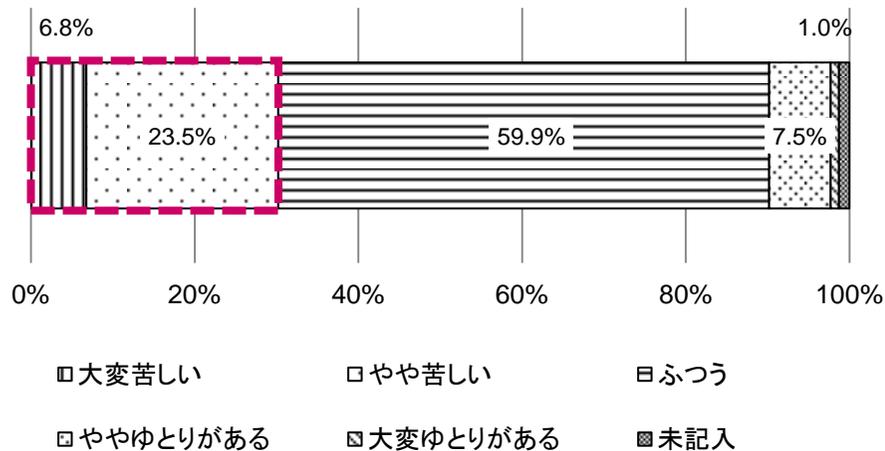
● 全体

- ・3割の方は、現在の暮らしが苦しいと感じている
- ・一般の方と要支援の方で大きな特徴の差はない

● 圏域別

- ・芳賀、宮城、粕川に現在の暮らしが苦しいと感じている方が多い
- ・文京・南部、永明は、他の圏域と比べると現在の暮らしが苦しいと感じている人が比較的少ない

◆現在の暮らしが苦しいと感じる高齢者の割合(%)



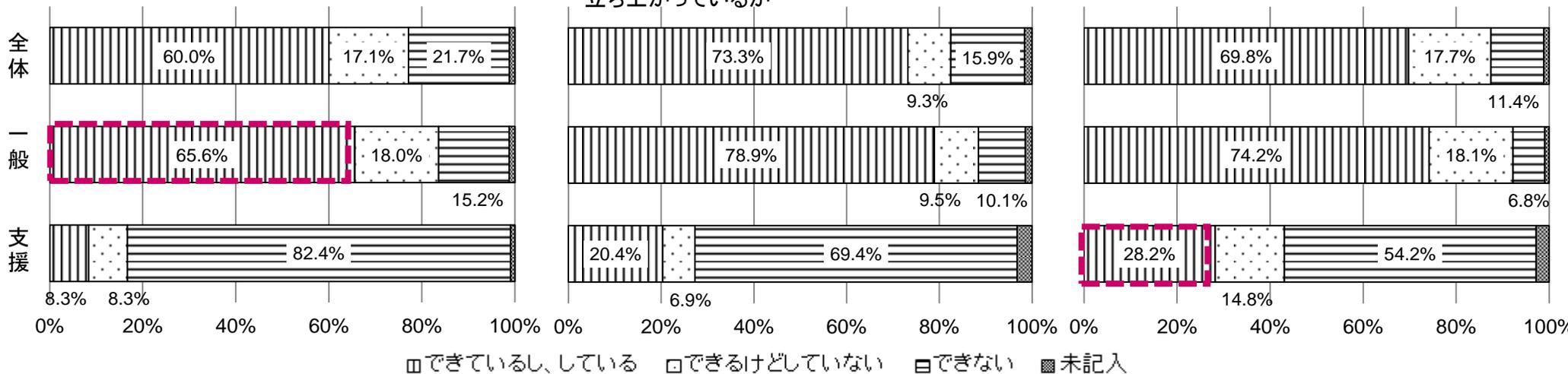
①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

体を動かすことについて

◆階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

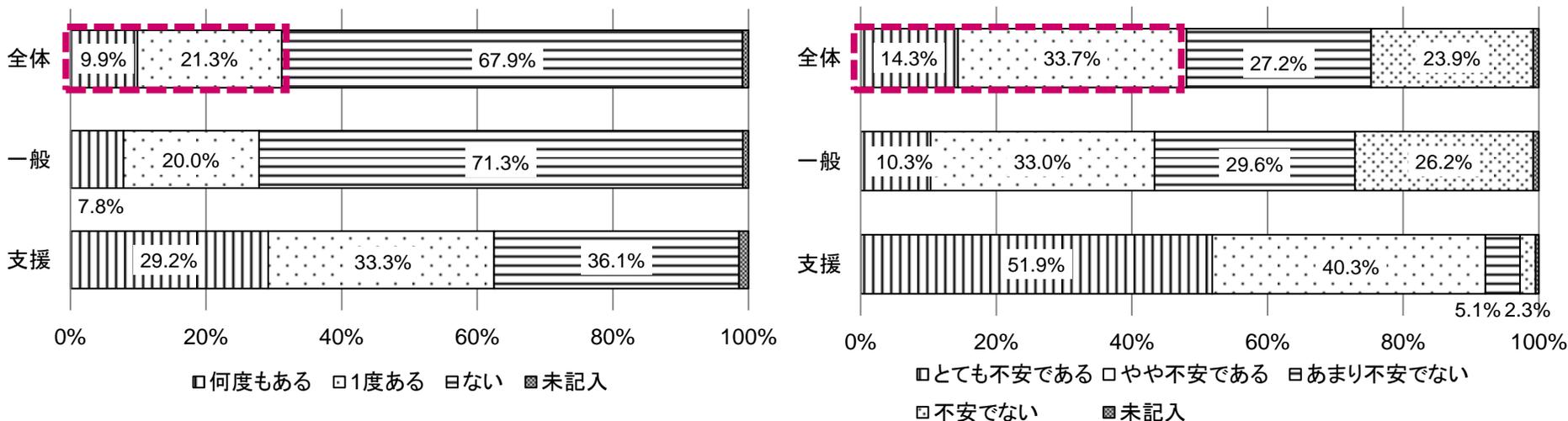
◆椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

◆15分位続けて歩いているか



◆過去1年間の転倒経験

◆転倒に対する不安



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

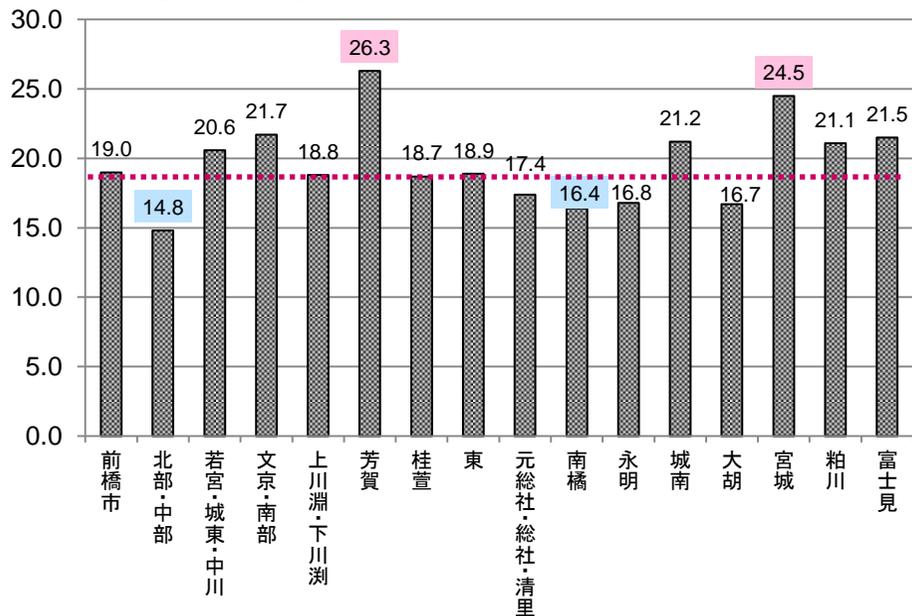
体を動かすことについて

■ 運動器機能

- 2割近くの方は、運動器機能が低下してきている
- 圏域別では、芳賀、宮城に運動器機能リスクを抱えている方が多い
- 圏域別では、北部・中部、南橘は元気な方が多いと想定される

◆ 運動器機能リスク高齢者の割合(%)

※5ページの設問中、3つ以上該当する選択肢を選んだものを運動器機能が低下してきているとして集計

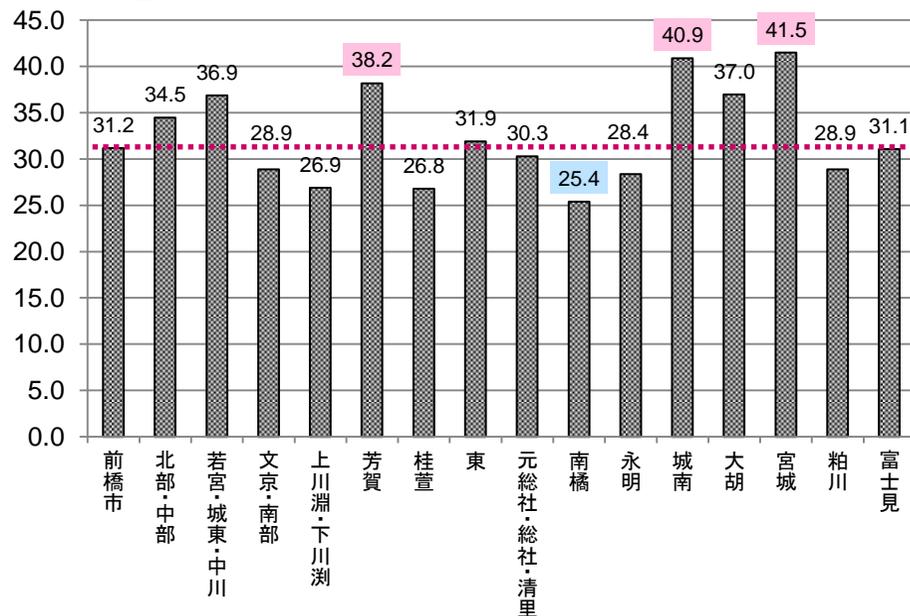


■ 転倒

- 3割の方が転倒のリスクがあり、転倒に不安を感じている方も半数近くいる
- 圏域別では、芳賀、宮城に加え城南でも転倒リスクを抱えている方が多い

◆ 転倒リスク高齢者の割合(%)

※5ページの過去1年の転倒経験で、「何度もある」「1度ある」を選んだものを転倒リスクがあるとして集計



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

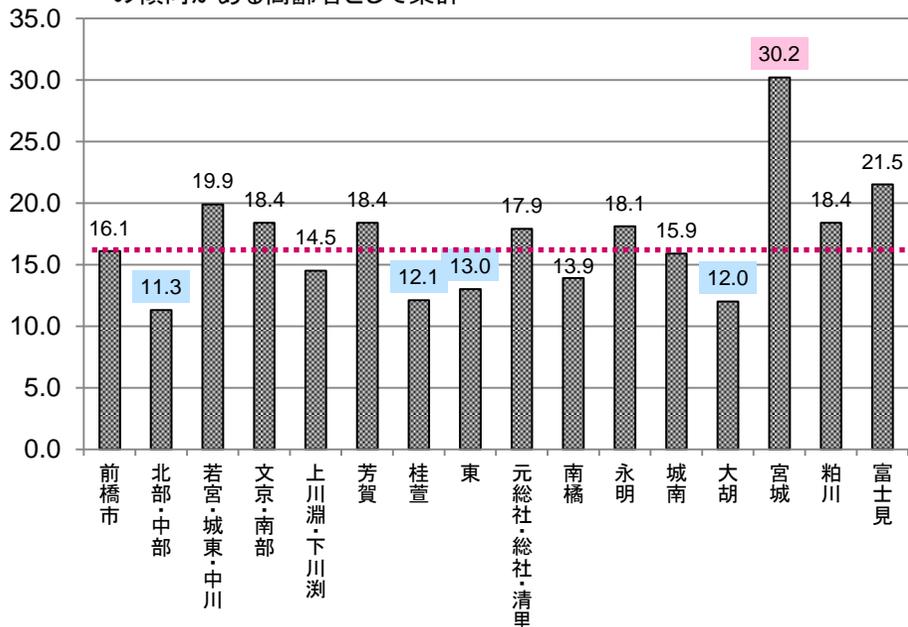
体を動かすことについて

■ 外出について

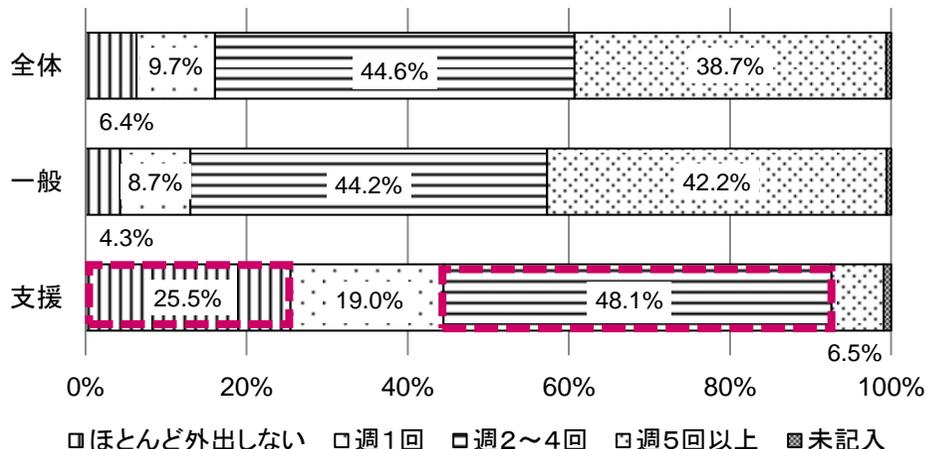
- 要支援の4人に1人はほとんど外出していない一方、半数近くは週2～4回外出している
- 一般の方も、2割の方は外出の機会が減っている
- 閉じこもりリスクは、宮城が突出して高く、北部・中部、桂萱、東、大胡は低い

◆ 閉じこもりリスク高齢者の割合

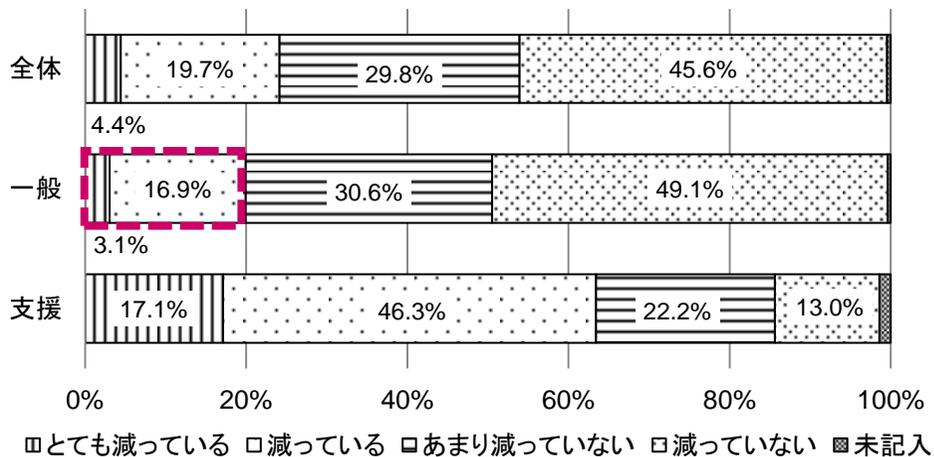
※外出の頻度が、「ほとんど外出しない」「週1回」を選んだものを閉じこもりの傾向がある高齢者として集計



◆ 外出の頻度



◆ 外出の機会 (昨年と比較して)



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

食べることについて

■ 栄養改善

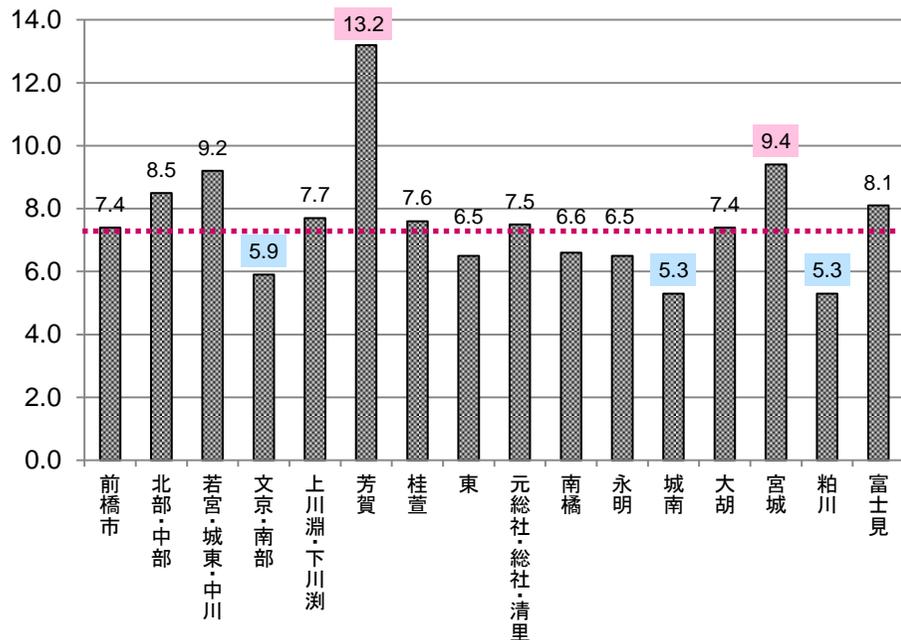
- 芳賀はBMIが低く、低栄養の疑いがある方が突出して多い
- 文京・南部、城南は低栄養の疑いがある方は少ない

■ 咀嚼機能

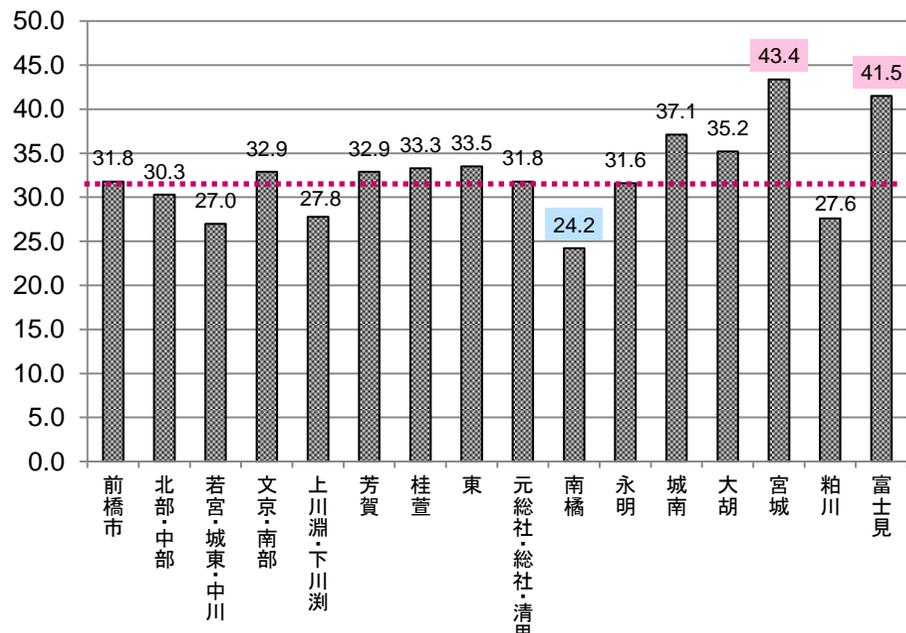
- 一般の方でも3割の方が、半年前に比べて固いものが食べにくくなったと感じている
- 咀嚼機能にリスクがあることが、必ずしも栄養改善リスクにはつながらない
- 中山間地の宮城、富士見に咀嚼機能の低下が疑われる方が多くなっている

◆ 栄養改善リスク高齢者の割合(%)

※身長・体重から算出されるBMIが18.5以下の場合、低栄養の疑いがあるとして集計



◆ 咀嚼機能リスク高齢者の割合(%)



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

毎日の生活について

■ 認知機能の低下

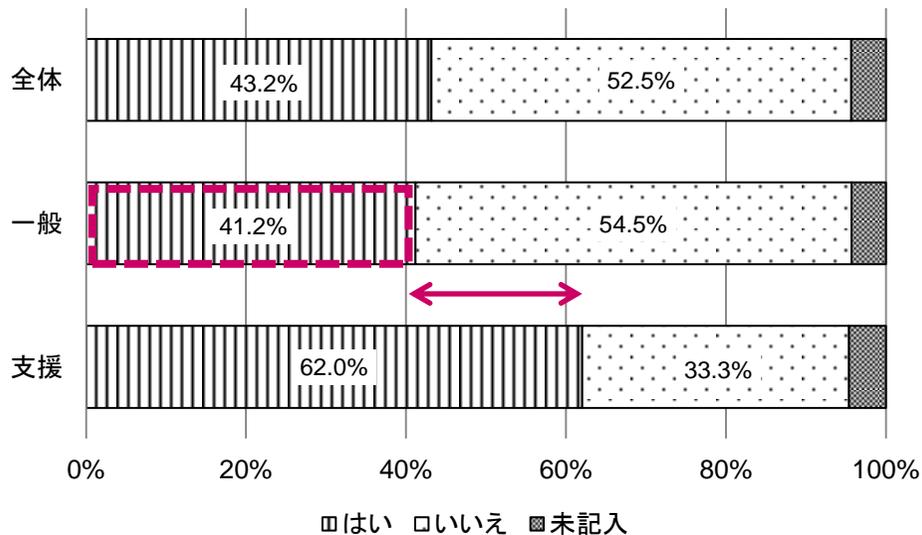
● 全体

- ・一般の4割の方は、物忘れが多いと感じている
- ・体を動かすことと比較すると一般の方と要支援の方の差が小さい

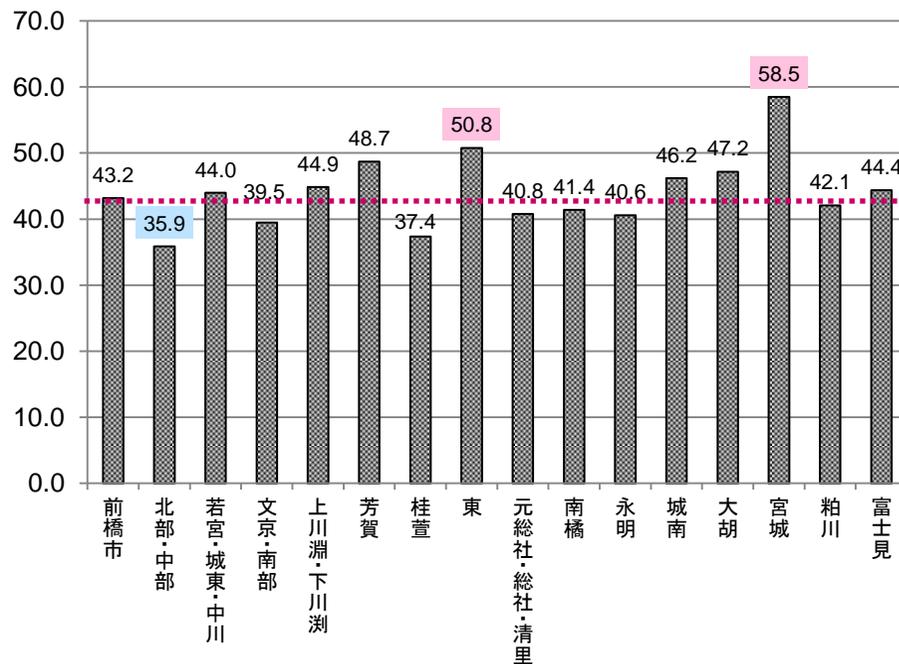
● 圏域別

- ・宮城に認知機能の低下がみられる方が多い
- ・他のアンケート結果と異なり、東圏域で認知機能の低下がみられる方が多い
- ・北部・中部は認知機能の低下がみられる方が少ない

◆物忘れが多いと感じる人の割合(%)



◆認知症リスク高齢者の割合(%)



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

毎日の生活について

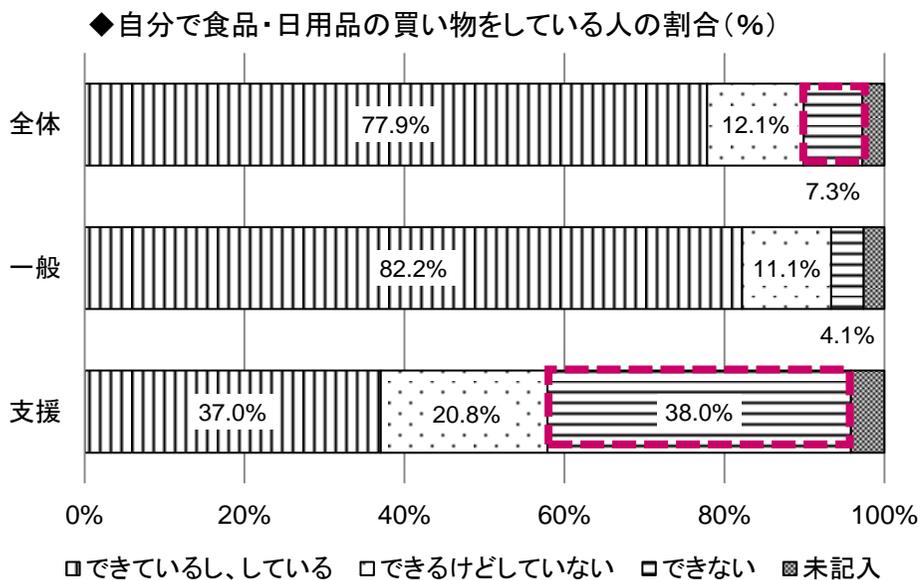
■ 買い物について

● 全体

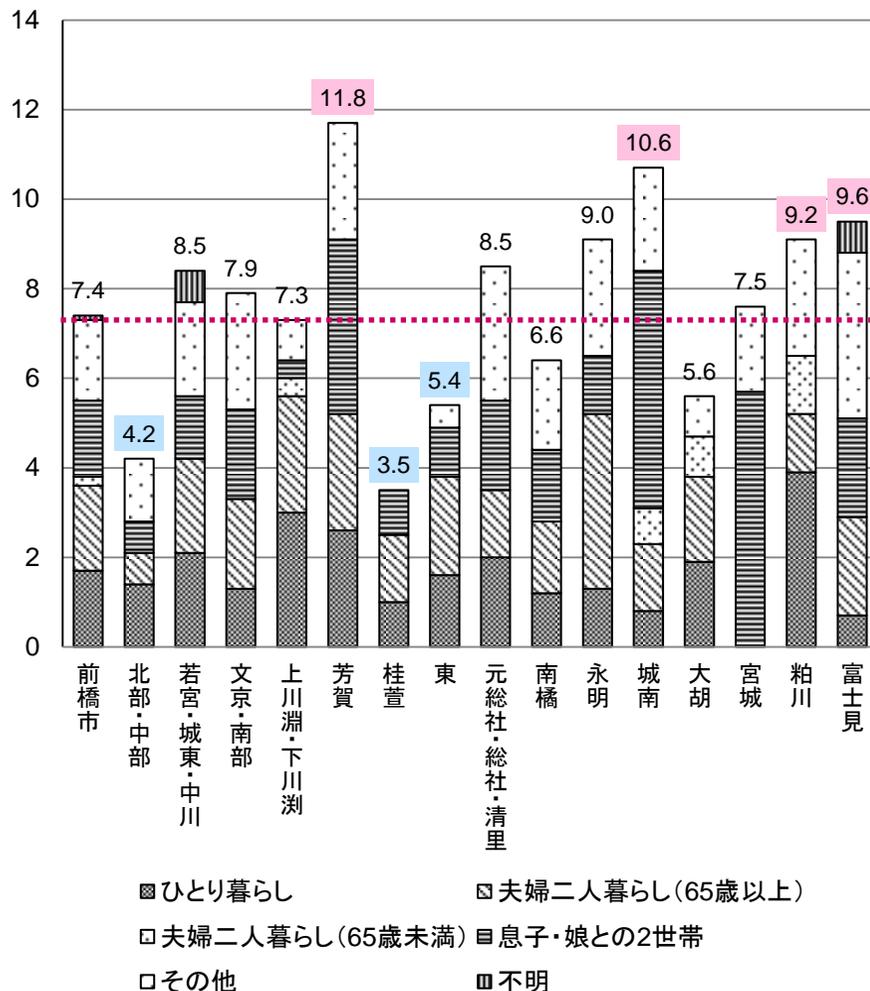
- ・7.3%の方は、自分で買い物できない
- ・要支援の4割近くの方は、自分で買い物できない

● 圏域別

- ・芳賀、城南、粕川、富士見の割合が高いが、城南、富士見は2世帯、その他の割合が高いため、現状では困っていないと想定される
- ・スーパー等が多い北部・中部、桂萱、東の割合は低い



◆買い物ニーズがある高齢者の割合(%)



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

毎日の生活について

■ 食事の用意について

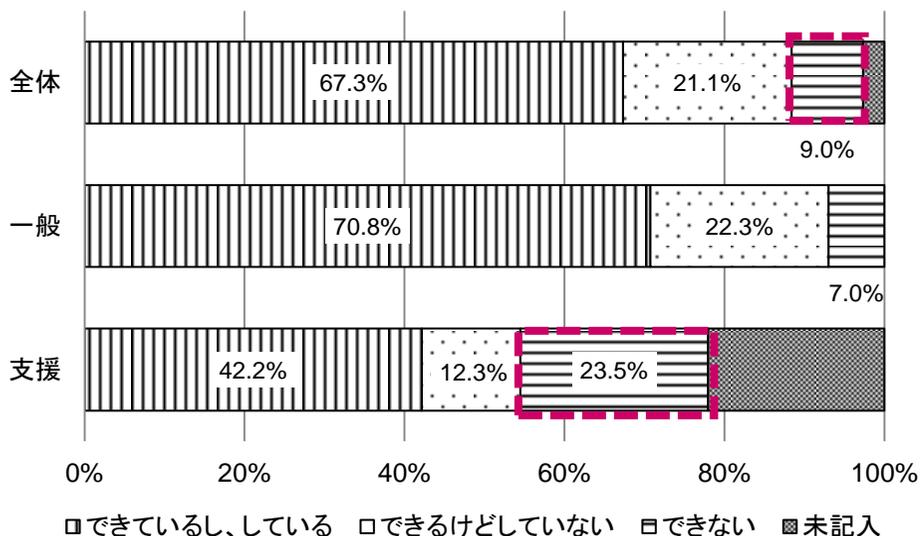
● 全体

- ・9.0%の方は、自分で食事の用意ができない
- ・要支援のおよそ4人に1人は、自分で食事の用意ができない

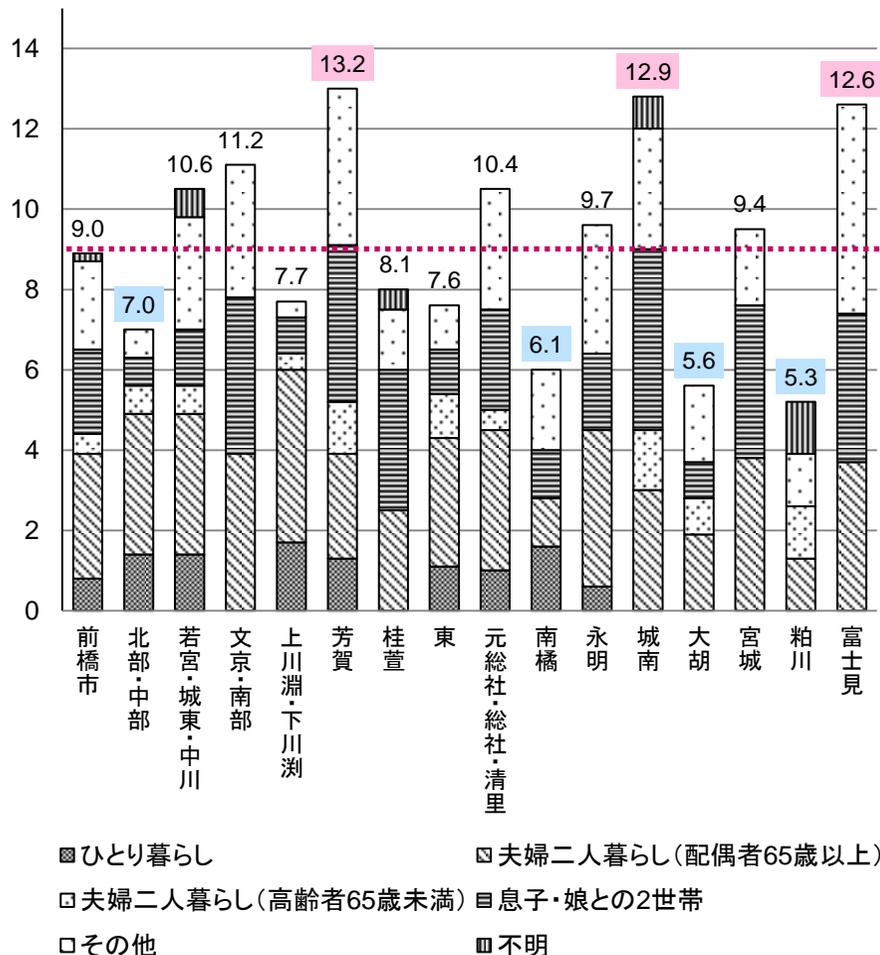
● 圏域別

- ・芳賀、城南、富士見の割合は高いが、城南、富士見は2世帯、その他の割合が高いため、現状では困っていないと想定される
- ・スーパー等が多い北部・中部、桂萱、東の割合は低い
- ・粕川の割合は、5.3%と低くなっている

◆ 自分で食事の用意をしている人の割合(%)



◆ 配食ニーズがある高齢者の割合(%)



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

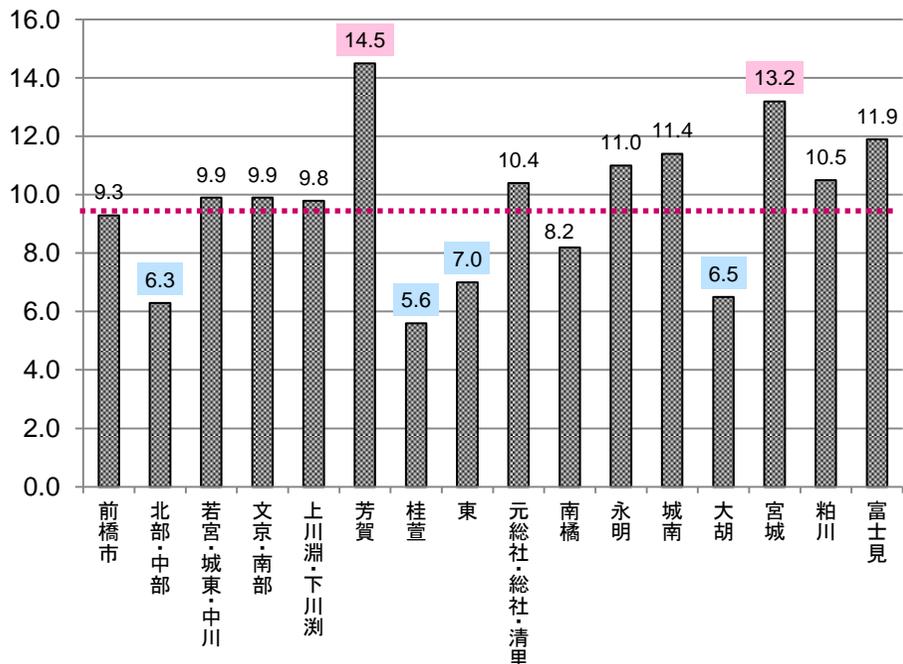
毎日の生活について

■ IADL(手段的日常生活動作能力)

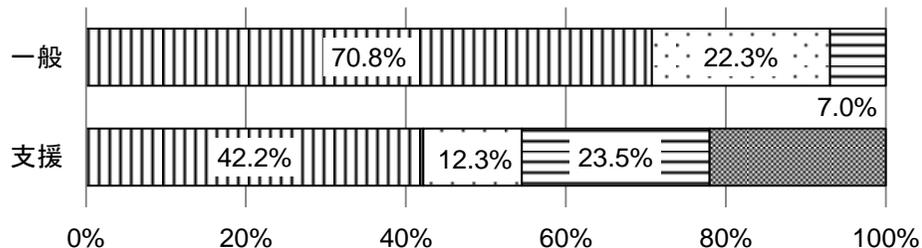
- 要支援の6割以上の方は、財産管理をすることができる
- 芳賀、宮城において、IADLが低い方が多い
- 北部・中部、桂萱、大胡は、IADLが低い方が少ない

◆ IADLが低い高齢者の割合(%)

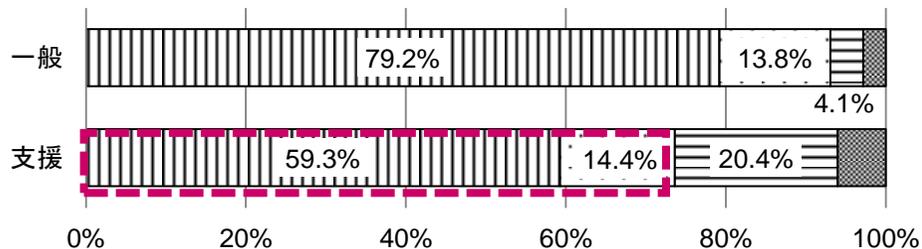
※10～12ページの設問中、3つ以上該当する選択肢を選んだものをIADLが低下してきているとして集計



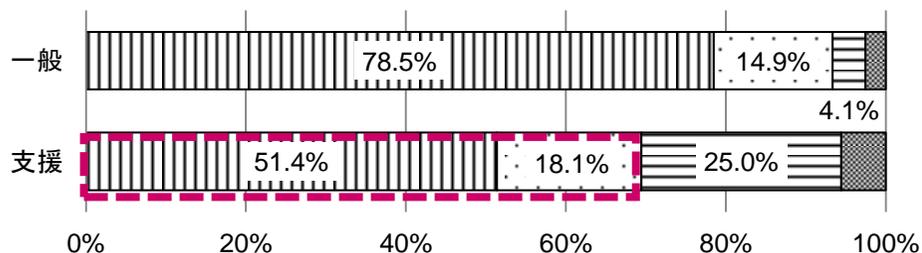
◆ 一人で外出しているか



◆ 自分で請求書の支払いをしているか



◆ 自分で預貯金の出し入れをしているか



□できているし、している □できるけどしていない □できない ■未記入

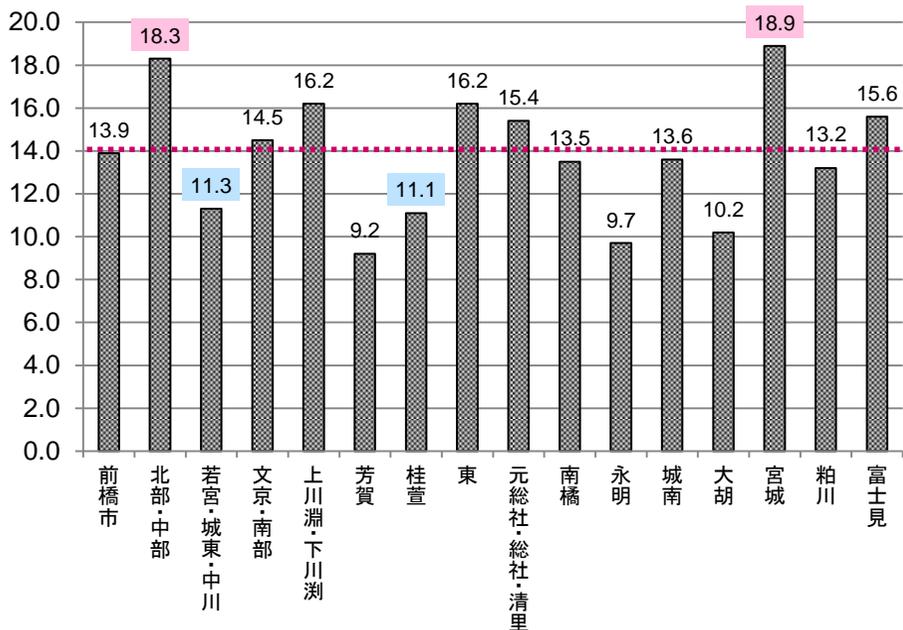
①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

地域での活動について

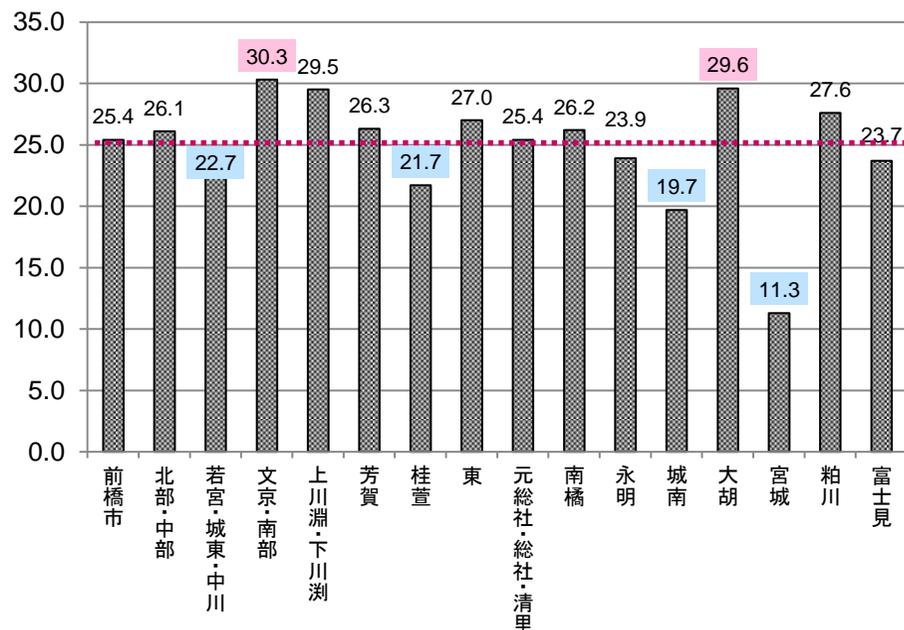
■ 全体

- スポーツや趣味のグループには4人に1人が参加している一方、ボランティア、学習・教養のグループへの参加は1割程度にとどまる
- ボランティア等への参加は、圏域によってばらつきが見られる
- 地域づくり活動へ参加者として参加する意向がある方は半数以上存在する
- 地域づくり活動へ企画・運営として参加する意向がある方も4割程度存在する

◆ボランティア等に参加している高齢者の割合(%)



◆スポーツ関係のグループに参加している高齢者の割合(%)



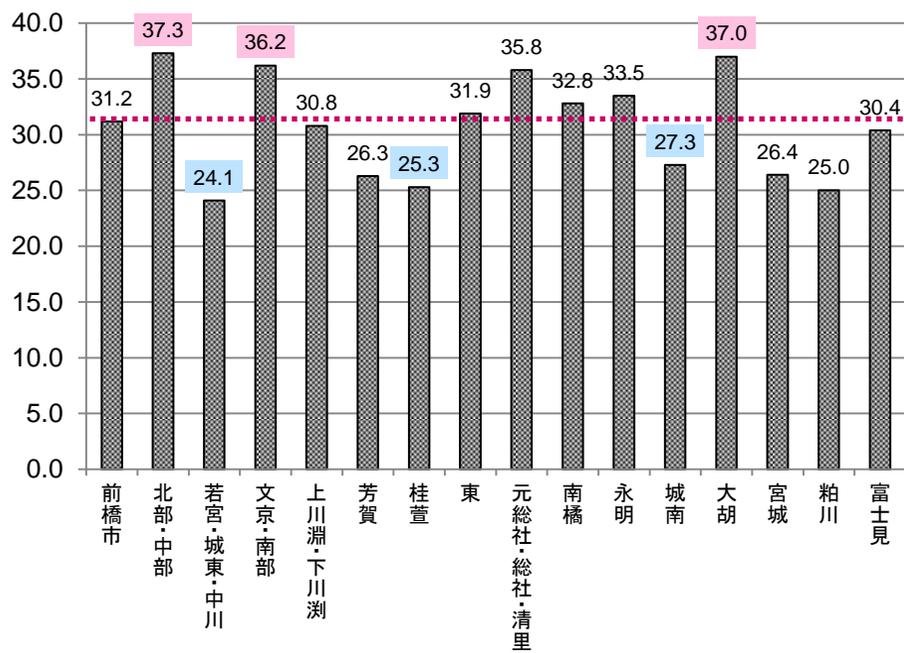
①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

地域での活動について

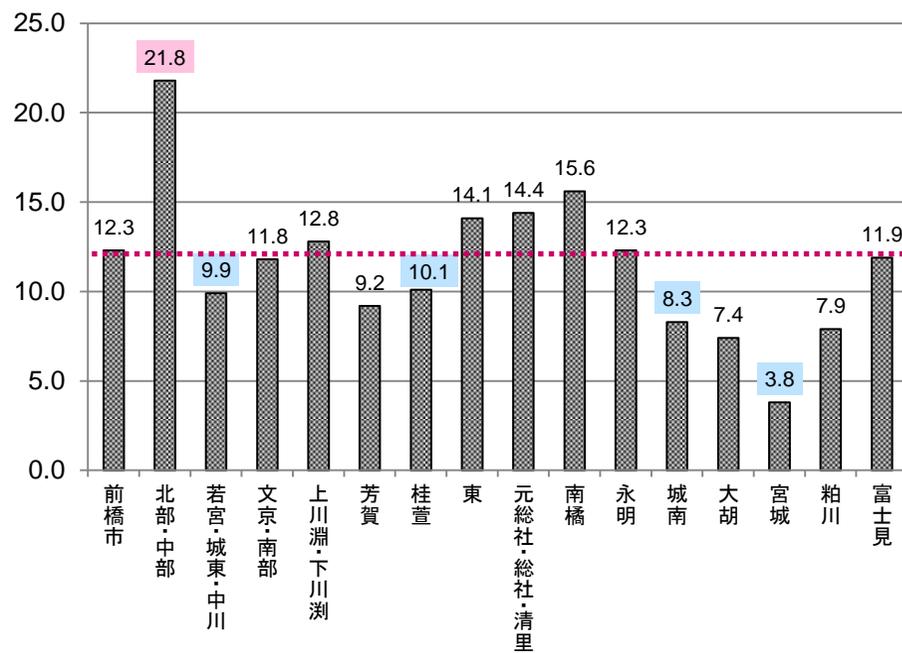
■ 圏域別

- 北部・中部は、地域活動全般に関わる方が多い
- 文京・南部、大胡は、スポーツ、趣味のグループに参加する方が多い
- 宮城は、ボランティアに参加する方が多い一方、グループ活動に参加する方が少ない
- 若宮・城東・中川、桂萱、城南は、地域活動に関わる方が少ない

◆趣味関係のグループに参加している高齢者の割合(%)



◆学習・教養関係のグループに参加している高齢者の割合(%)



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

たすけあいについて

■ 情緒的サポート

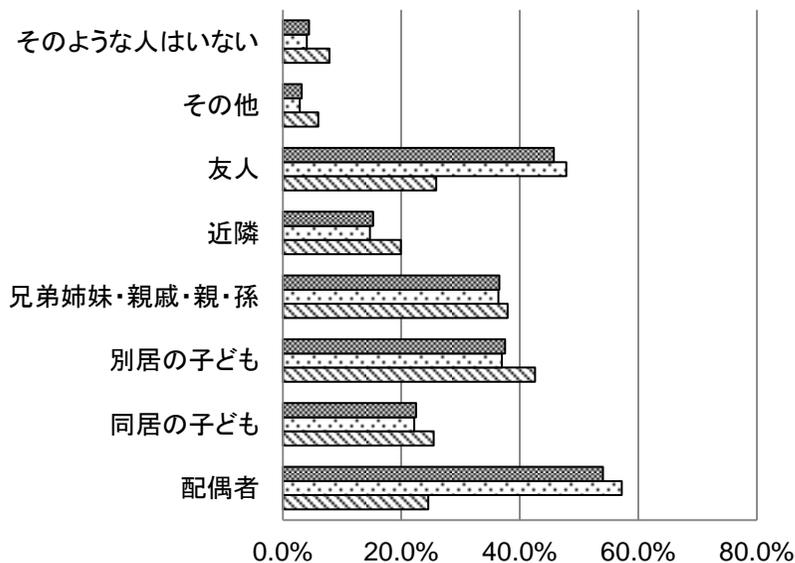
● 全体

- ・一般の方は、配偶者や友人がサポート相手になることが多い
- ・要支援になると、配偶者や友人がサポート相手になる場合が一般の方の半数程度である。
- ・要支援になると、子供がサポートする機会が増加する。

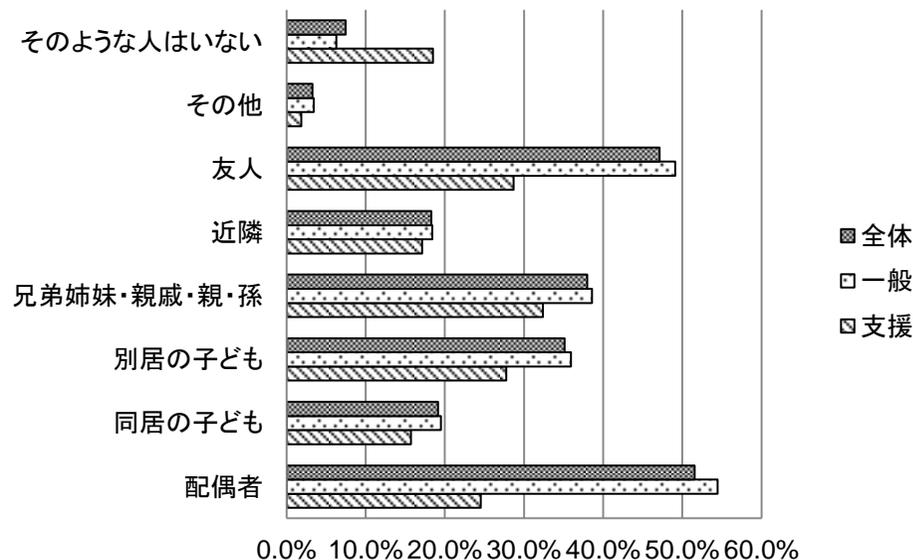
● 圏域別

- ・圏域ごとに大きな特徴の差はない

◆心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人の割合(%)



◆心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人の割合(%)



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

たすけあいについて

■ 手段的サポート

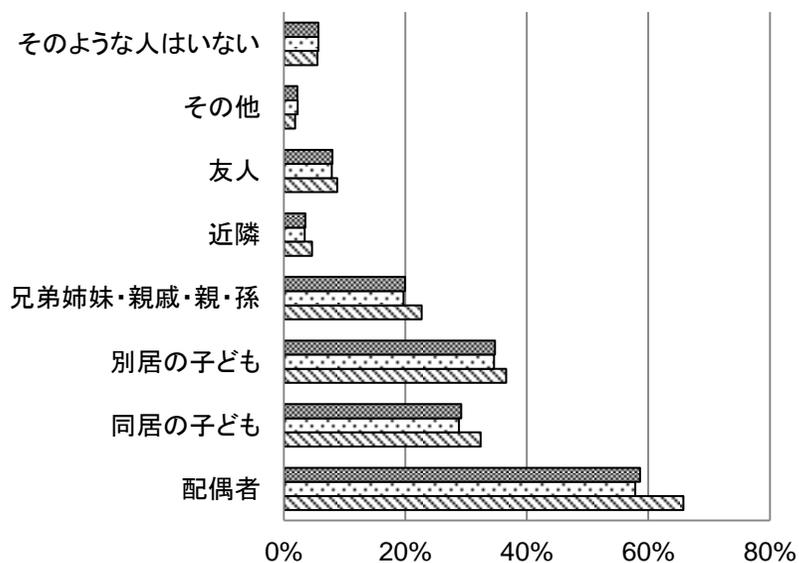
● 全体

- ・一般の方と要支援の方で大きな特徴の差はない
- ・配偶者を始めとして、家族が看病や世話をする又はしてあげることがほとんどである

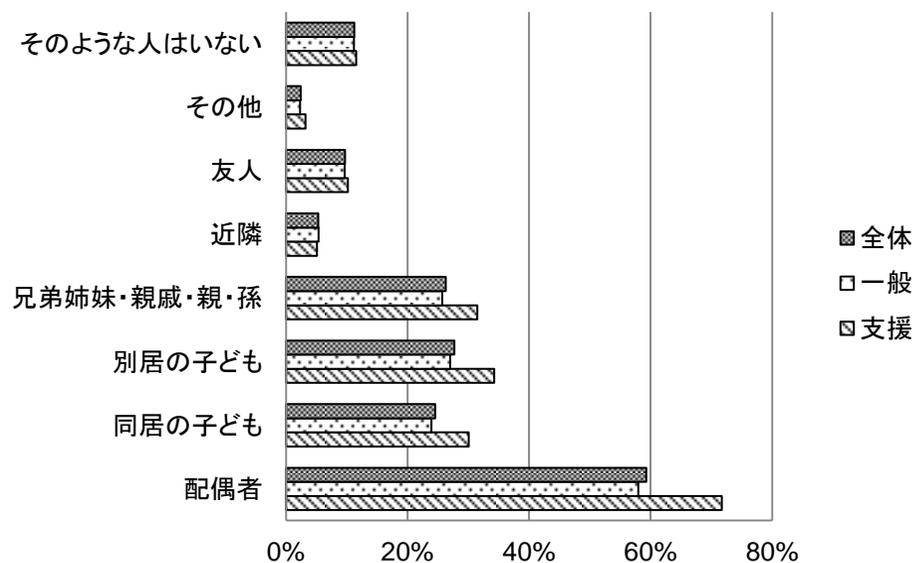
● 圏域別

- ・圏域ごとに大きな特徴の差はない

◆看病や世話をしてくれる人の割合(%)



◆看病や世話をしてあげる人の割合(%)



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

健康について

■ 主観的健康感

● 全体

・一般の8割近くの方が主観的に健康と感じているのに対して、

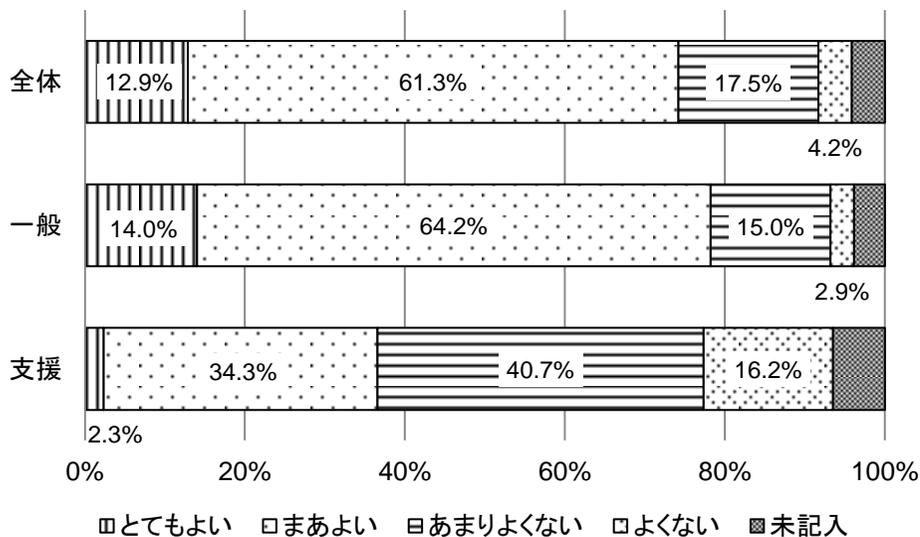
要支援の方はその半数程度にとどまる

・1割強の方は、現在もタバコを吸っている

● 圏域別

・圏域別に大きな特徴の差はない

◆現在の健康状態について



■ 主観的幸福感

● 全体

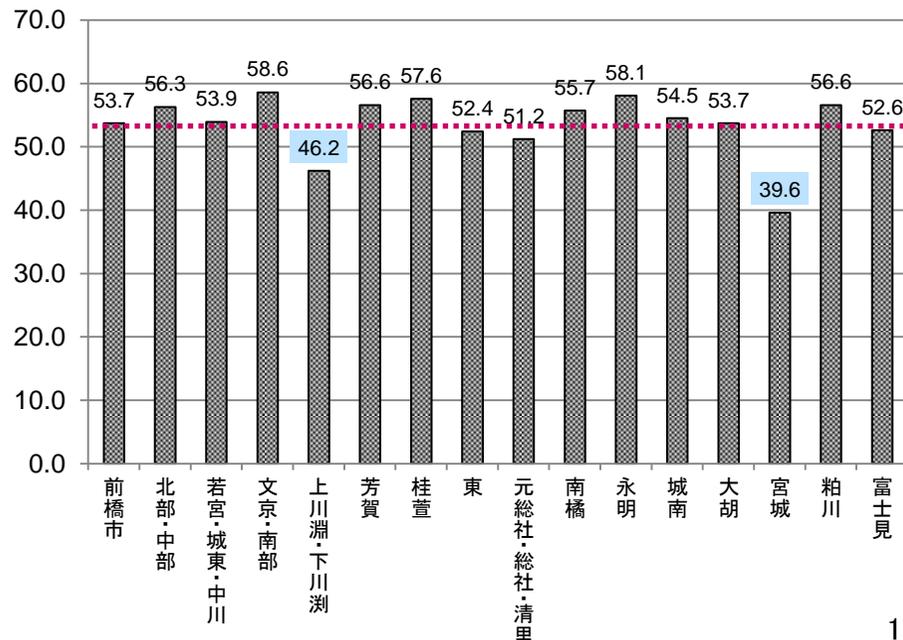
・要支援の方の主観的幸福感は低く、5点以下をつけた方は4割を超える

● 圏域別

・上川淵・下川淵、宮城において、主観的幸福感の高い高齢者の割合が低い

※0～10点の選択肢で、8点以上を選択したものを幸福感が高いとして集計

◆主観的幸福感の高い高齢者の割合(%)



①介護予防・日常圏域ニーズ調査の結果について

健康について

■うつ傾向

● 全体

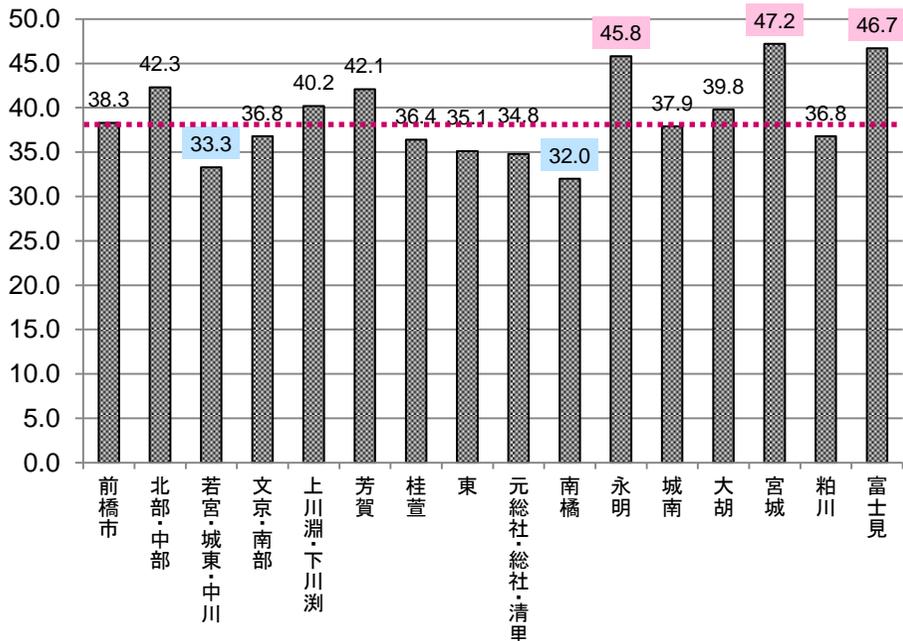
- ・要支援の半数以上の方は、うつになるリスクがある
- ・一般の方も、3人に1人はうつになるリスクがある

● 圏域別

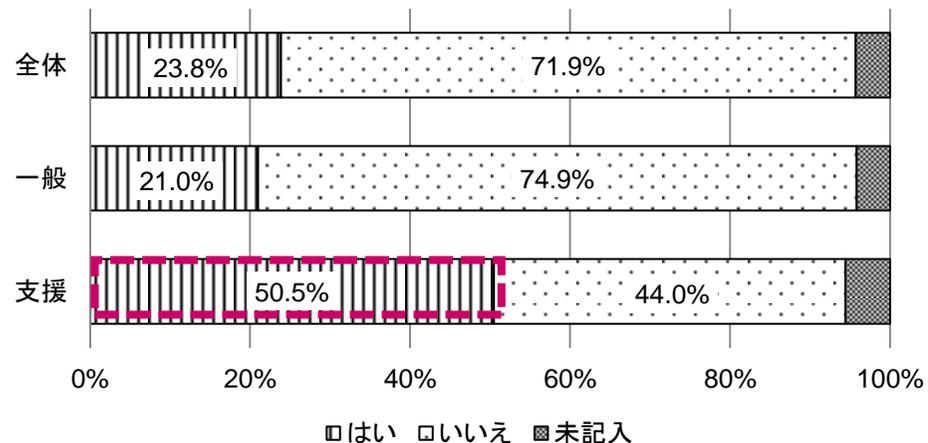
- ・他のアンケート結果と異なり、永明、富士見でうつリスクの割合が高い
- ・若宮・城東、中川、南橘は、うつリスクの割合が比較的低い

◆うつリスク高齢者の割合(%)

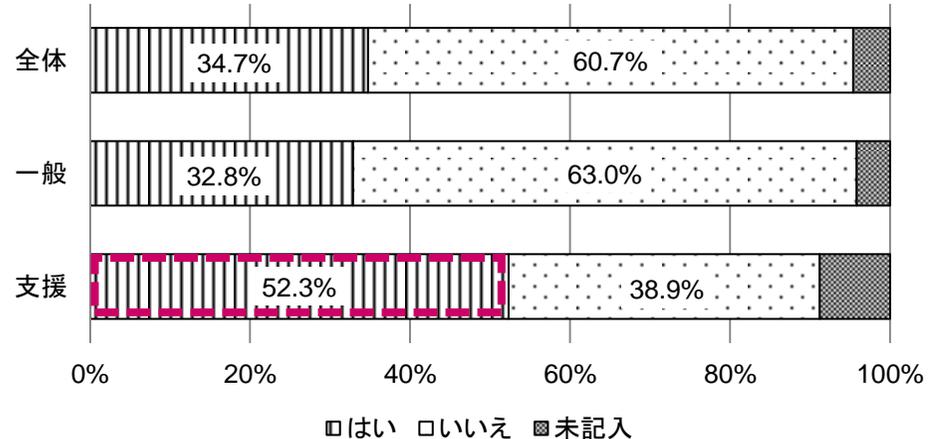
※右の設問のうち、いずれかに「はい」と回答したものを集計



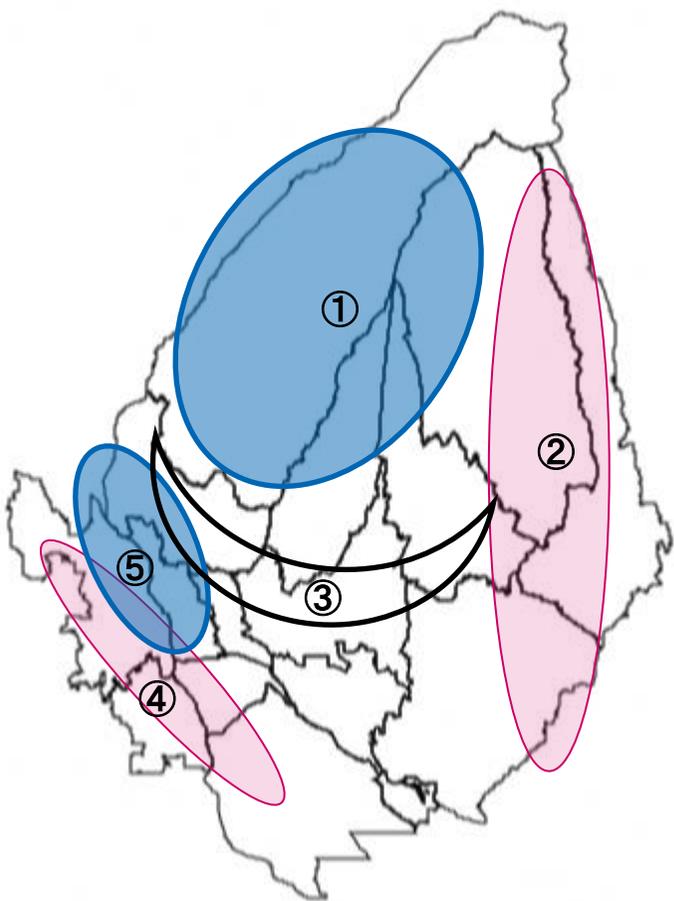
◆この1か月間、気分が沈んだり、憂うつになったりすることがあったか(%)



◆この1か月間、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったか(%)



まとめ



■ 中山間地・市東部(①、②)

- ・ 現状として、身体的機能低下から要介護になるリスクのある方が多いようである。子供等と同居している割合が他の圏域より多いため、支援してもらえる一方、自分で動いたり外出する機会が減ってきている等の理由が考えられる。
- ・ 市街地から離れた市東部は、買い物や配食のニーズが高い

■ 郊外(③、④) ※大胡は市東部の地域核

- ・ 高齢化率は比較的低いですが、世帯構成が高齢者のみで構成されている割合が高い。周辺にスーパー等があり外出もできているが、東圏域で認知機能が低下している方が多い等の傾向もあり、将来的なリスクがあると考えられる。

■ 旧市域の老人福祉センター周辺(④、⑤)

- ・ 老人福祉センター等の人が集まる場所へ外出する機会が多いせい
か、地域活動やグループ活動が比較的活発で、機能低下の傾向が比較的低いようである